

大人顔負けの質問で 村の将来を考える

川北小学校児童が議員さん

川北小学校の六年生児童が二月十二日、村議会本会議場で「ミニ議会」を開きました。これは、社会科学習の一環として、政治と暮らしについて学ぼうと行われたもので、六年生十六人が議員として出席。そのほか、議事進行に近良平議長、答弁に平田大六村長や野沢専治教育長などが出席して議会が開会されました。

初めて議場に足を踏み入れた「子ども議員」の皆さんは少し緊張気味でしたが、一般質問が始まると堂々と登壇。村の雇用の場や人口増加対策、学校の耐震対策や跡地利用、いじめ問題など、村の課題や疑問について大人顔負けで質問。その後、村への提案として、村の活性化に役立つ施設



一人ひとりの氏名標が付けられた議席に座り、真剣な表情で答弁を聞く皆さん。

建設案についての説明が行われました。

関川中学校の地震対策の質問をした米野詩織さん(小見)は「春に入学する中学校が一番地震に強いと聞いて安心しました」と話していました。

また、一般質問や提案に対して、平田大六村長が村の現状や取り組みを分かりやすく答弁。子ども議員の皆さんは、熱心に耳を傾け、本議会さながらの議事進行となりました。

「ゆっくりと 流れる動き で健康に」

健康太極拳 教室開催中

二月三日、健康教室シリーズの「健康太極拳教室」が村民会館大ホールを会場に行われ、約四十人の皆さんが参加しました。

太極拳は中国の拳法で健康法としても知られ、血流を良くし、内蔵の機能を高め、体内バランスを理想的に保ち、



悪いオニを退治 できたかな？

2月3日、村内の保育園で節分の豆まきが行われました。

下関保育園では、自分で書いたオニの面をかぶり、心の中にすんでいる悪いオニを発表。「オニは～外、福は～内」と、元気にオニを追い出しました。



肩こりや腰痛、ストレス解消にも効果がある運動です。

講師の関文恵さん(村上市・日本健康太極拳協会)は「太極拳は、運動が苦手な方や高齢の方でも出来ます。座

ったままでいいので、無理しないでがんばりましょう」とあいさつしました。

参加していた女性の方は「とてもリラックスしてできました。家でも一人で出来るうです」と、心地よい汗をかきながら話していました。

太極拳教室は全六回シリーズで開催されていて、途中から参加される方も歓迎です。

日程 三月十七日までの毎週火曜日
10時～ 残り三回
問い合わせ先
村民会館

☎六四 二一三四



畜産安心ブランド 生産農場

村内の認定農場が 9か所に

早坂ノエミさん（深沢）が営む養鶏場・アグリ早坂（小見前新田）が、クリーンチキン生産農場として認定を受けました。

この制度は、衛生管理や飼料の安全性など一定の基準を満たす農場を「畜産安心ブランド生産農場」として認定し、消費者の安心を得て県畜産物の消費を拡大しようと、県と新潟県畜産協会が連携して行っているもの。

村内で認定されている畜産安心ブランド生産農場は、これまで8農場。肉用鶏としての認定農場はアグリ早坂が初めてとなります。

アグリ早坂の養鶏場では、脂肪が少なく、うま味成分が豊富な肉用鶏「にいがた地鶏」を約4,400羽飼育。今後は、クリーンチキンとしての消費拡大が期待されています。



認定された「アグリ早坂」の早坂ノエミさん

投稿

「みんなで考えよう」

地球温暖化 ③

平田 時夫（滝原）

低炭素化社会とは？

「低炭素化社会」とは、二酸化炭素（CO₂）を出さない社会にする。そして一番大切なのは、そういう社会について、いつもみんな考えて行動するということだそうです。（朝日新聞一月五日付け、

日本から始めよう低炭素化社会づくりより抜粋）

私は、昭和七年生まれの七十七歳。老いてもこんな大切なことを考えなければならぬ世の中になつてきたとは、夢にも思わなかつたです。し

かし、着々と地球温暖化が進んでいる現実。このままいくと平均気温は今世紀中に二位上昇するといわれています。これは、東京とアテネの温度差に相当し、大きな影響が懸念されるといわれています。地球温暖化の主原因は、二酸化炭素の増加です。それでは、この地球温暖化にどう対応すればよいのでしょうか？

読売新聞社特別編集委員の楠本五郎氏は、生活者の視点からは、生活様式（ライフスタイル）を見直すべきだといっています。日本は食料の六〇%を海外から輸入し、その三分の一を食べ残して捨てて

います。その量は、年間一人あたり八十四kgの計算。なんともつたいない、驚沢な生活でしょうか。

日本のエネルギー自給率は、食料より低いわずか四%。エネルギーを無駄に使ってはいけないし、使うと二酸化炭素が発生することを自覚しなければならぬ必要性に迫り込まれているのです。

敗戦後の日本は、石油資源がほとんど無かつたため、石油の増産で経済復興を進めました。また、昭和三十年頃には、中東の油田開発が進み、安くて良質な石油の輸入が可能になり、政府のエネルギー

政策は石炭から石油が主体のものに転換が進められました。

私はその頃の時代は、林業炭焼で生計を立てていました。が、エネルギー革命の中で炭焼産業も斜陽化されました。関川村の炭焼産業も次第に廃業になり、私たちのような安定した職業の無い者は、東京方面へ出稼ぎに行き、片手間に農業をして生計を立てたのです。

高度成長時代の日本は、暮らしの豊かさを求め、生活も便利になっていきましたが、その反面で電気やガス、車のガソリンなど、ばく大なエネルギーが消費されています。関川村では、自給自足で野菜を作り、自然の中でゆとりと豊かさを感じられる田舎暮らしを求めることができます。

しかし、田舎の生活を求める人、都会の生活を求める人のどちらが二酸化炭素を減らすことができるかという点、計算ではおおむね同じ位といわれています。

「えっ、都会の生活と同じなんですか？」と、思われると思いますが、このことは、次回お話ししたいと思います。